

皆様

名古屋大学環境学研究科大気水圏科学系の甲斐憲次です。

JSPS 研究拠点形成事業の社会貢献活動として、下記の通り、公開セミナー「バイオエアロゾル研究の最前線 ～空飛ぶ微生物の知られざる正体～」を開催する運びとなりましたので、お知らせします。

講師として、新進気鋭の能田淳准教授（酪農学園大学獣医学群）と牧輝弥准教授（金沢大学理工研究域）をお呼びしました。モンゴルや中国での海外調査探検談を織り交ぜながら、バイオエアロゾル研究のおもしろさと重要性を語っていただきます。どなたでも自由に参加でき、事前申込みは必要ありません。多くの方のご出席を期待しています。

なお、出席者の方々にはもれなく「そらなっとう」を差し上げます。

「そらなっとう」とは、牧輝弥博士が能登半島上空 3km で採取したバイオエアロゾルから納豆菌を発見、培養されて、製品化されたものです。

#### 記

JSPS 研究拠点形成事業「アジアダストと環境レジームシフトに関する研究拠点の構築」公開セミナー：「バイオエアロゾル研究の最前線 ～空飛ぶ微生物の知られざる正体～」

日時： 2016 年 2 月 19 日(金) 15:00-17:00

場所： 名古屋大学環境総合館 3 階講義室 2

<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/access/index.html>

プログラム：

挨拶

15：00-15：10 JSPS 研究拠点形成事業の進捗状況について

甲斐憲次（名古屋大学環境学研究科教授）

講演

15：10-15：50 「バイオエアロゾルと環境ダストの微妙な関係」

能田 淳（酪農学園大学獣医学群准教授）

【要旨】 バイオエアロゾルとは何か、どこから発生し、長距離を移動するのに際してどんなことが考えられるか、環境ダストや大気汚染物質との微妙な相互関係なども含めてお話いたします。また、モンゴルでの現地調査や実験室レベルでのバイオエアロゾル実験なども含め、最新のデータから見えてきた事例を紹介いたします。

15 : 50-16 : 00 質疑

16 : 00-16 : 40 「アジア大陸の砂漠で生まれるバイオエアロゾル」

牧 輝弥（金沢大学理工研究域准教授）

【要旨】 空飛ぶ微生物は「バイオエアロゾル」と呼ばれ、高度数千メートルの大気中にも数百種類の微生物が漂っています。日本の上空には偏西風が吹いており、春先には、アジア大陸の沙漠地帯から砂の粒子と一緒に微生物も飛んできます。日本のバイオエアロゾルの起源を辿ると、タクラマカン沙漠やゴビ砂漠から風で運ばれてきた微生物かもしれません。どんな種類の微生物が飛んでくるのでしょうか？その性質や特徴は私たちの生活とどのようにかわるのでしょうか？砂漠での気球観測や大気微生物の最新の解析データを交えながら、バイオエアロゾルの実体に迫りたいと思います。

総合討論

16 : 40-17 : 00

以上

甲斐憲次

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D2-1 (510)

名古屋大学・大学院環境学研究科・教授

環境総合館 726 室

TEL&FAX 052-789-4257 email: [kai@info.human.nagoya-u.ac.jp](mailto:kai@info.human.nagoya-u.ac.jp)